学校番号	112

令和３年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	新版「数学Ⅰ」　（実教出版）						
副教材等	スパイラル数学Ⅰ＋A（実教出版）　改訂版ニューアクションβ数学Ⅰ＋A（東京書籍） 短期完成 データの分析ノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

高校数学を通して身に付けてほしい力が３つあります。

１つ目は「読み取る力」です。高校数学では新しい数学記号や表現が出てきます。正しい答えを導くためには、それらを読み取り、自分の知っている知識に置き換えることが重要となります。

２つ目は「考える力」です。読み取ったキーワードなどからどのような公式が使えるか、どのような計算が行えるかなどを自分自身の力で考え、導き出す必要があります。

３つ目は「表現する力」です。数学は答えだけでなく、その答えを導き出す過程も非常に大切です。テストでは答えが合っていても途中の式や記述が間違っていれば減点されることがあります。誰が見ても正しいと思えるような解答をするよう心がけてください。

以上のような「情報を正確に読み取る」「自分で考え道筋を立てる」「自分の考えを表現する」という力は数学だけでなく、今後いかなる場面でも活用することができる力です。

一人で頑張ってもどうしても分からない問題などがあれば私たち教員に質問してください。そのときは全力でサポートします。ぜひ、高校数学を通して数学の面白さを感じ、自身の成長につなげてください。

2　学習の到達目標

数と式、２次関数、図形と計量、集合と論証およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する力を培い、数学の面白さを認識できるようにするとともに、それらを活用することができる態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学の論証などに関心をもつとともに、数学の面白さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的思考に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な考え方、法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価方法	出欠、授業遅刻、授業の参加態度、発言、提出物、定期テスト、小テストなど。	定期考査、小テスト、授業中の応答、練習状況、応用問題の理解や表現など。	定期考査、小テスト、授業中の応答、練習状況など。	定期考査、小テスト、授業中の応答、練習状況など。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">数と式</td><td>1.　整式</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td rowspan="3">a:式の展開や因数分解に関心を持つ。
数を実数まで拡張する過程に関心を持つ。
b:有理数の意味を考察することができる。
１次不等式の解き方を考察することができる。
c:様々な公式を目的に応じて処理することができる。
無理数の計算ができる。
１次不等式を解くことができる。
d:不等式の解の意味を理解し、不等式を解くことができる。</td><td rowspan="3">定期テスト
小テスト
提出物
授業態度
観察</td></tr>
<tr><td>2.　実数</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>3.　一次不等式</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1
・
2</td><td rowspan="2">二次関数</td><td>1.　二次関数のグラフ</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td rowspan="2">a:平方完成の計算に意欲をもって取り組む
グラフとx軸との位置関係に関心を持つ。
b:平行移動を含めてグラフをかくことができる。
２次方程式・不等式の解について考察できる。
c:２次方程式の解の個数や２次不等式の解を求めることができる。
d:グラフの頂点や軸についての知識を身に付けている。
共有点の個数は、判別式の符号によって分類されることを理解している。</td><td rowspan="2">定期テスト
小テスト
提出物
授業態度
観察</td></tr>
<tr><td>2.　グラフと方程式、不等式</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>2</td><td>図形と計量</td><td>1.　三角比</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>a:三角比の相互関係に関心を持つ。
三角比を用いて面積や空間図形の計量に活用できる。
b:鈍角まで拡張した三角比を考察することができる。</td><td>定期テスト
小テスト
提出物
授業態度
観察</td></tr>
</table>

		2.　三角比と図形の計量	○		○		c:鈍角の三角比を鋭角の三角比で表すことができる。 正弦・余弦定理などを用いて計量することができる。 d:三角比について基礎的な知識を身に付けている。	
2 ・ 3	集合と論証	1.　集合 2.　命題と条件 3.　逆、裏、対偶	○	○	○	○	a:条件が集合と関係していることに関心を持つ。 b:数学で用いられる論理の言葉が集合の記号と対応していることを考察することができる。 c:対偶を用いて命題を証明することができる。 d:集合の表し方を理解して、条件を表したり、証明に用いたりすることができる。	定期テスト 小テスト 提出物 授業態度 観察
3	データの分析、数Ⅱ先取り	1.　代表値 2.　四分位数と箱ひげ図 3.　分散と標準偏差 4.　データの相関	○	○	○	○	a:様々なデータから散らばり具合を整理して全体の傾向をつかもうとする。 b:整理した表、図、値などの意味を理解し、そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。 c:箱ひげ図をかいたり、相関係数を求めたりすることができる。 d:用語や相関係数の意味を理解している。	定期テスト 小テスト 提出物 授業態度 観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　d:知識・理解